

街路樹

技法を学び伝承すること



7月

全国的にベテラン教員の大量退職と若手教員の増加が進んでおり、本市においても同様に学校力の低下などが危惧される状況となっています。そのため、初任から5年未満の若手教員の相談や指導を教職10～15年程度の中堅教員とベテラン教員が軸となって受け止め、援助する校内OJT体制を意図的・組織的に作っていく必要があります。

学習院大学教授・東京大学名誉教授である、佐藤 学氏は著書「教師花伝書」の中で次のように述べています。



職人としての教師の技術は、「技能」ではなく、「技」あるいは「技法」である。その伝承と学びは「模倣」を基本としており、「徒弟制」によって伝承し学ばれるのが最も適している。徒弟制の学びにおいては、初心者は親方や先輩から事細かに指導され、助言されて学ぶのではなく、親方や先輩がモデルを示し、初心者はそのモデルを模倣することによって実践のスタイルと技を身につける。このような教えることを最小限にした指導方法を「メンタリング」と呼んでいるが職人としての教師の「技」や「技法」は、教師コミュニティにおける「模倣」と「メンタリング」によって伝承され学ばれるべきなのである。

多くの教師は、「妙法」を求めあまり、隣の教室の教師から学ぶことを怠っているし、最も身近な同僚から学ぶことをおろそかにしている。さらに、日々の修養を通して「種」を育むことが求められるのに、「花」に目を奪われ、「花」の育て方や咲かせ方に意識を奪われていると言つてよい。

～中略～

21世紀の社会は、これまで「教える専門家」としての役割を担ってきた教師に「学びの専門家」へと脱皮することを要請している。



多くの先生方は、日々子どもたちと関わる中で、教育の専門家として、多くの事柄を学び直す必要を感じていることでしょう。

当センターでは、「学び続ける教員」を支えるために、今年度より「教師力upセミナー」を立ち上げることとなりました。初回は、8月18日(火)18時15分から市文化センターにて行います。詳細については、1学期中に各校へご案内をいたします。是非、興味・関心のある分科会に参加いただき、多くの先生方と情報交換等をする中で、自分の課題解決に役立ててほしいと思います。



2つの予防を使い分けて



生徒指導上の問題を防ぎたい、起こさないようにしたいという場合には、大きく分けて『治療的予防』と『教育的予防』の2種類の予防があります。

『治療的予防』とは、「課題のある児童生徒を変える」ことにより、大人主導で問題の解決や解消を図っていくことです。また、『教育的予防』とは、「全ての児童生徒が変わる」ことにより、児童生徒自らが問題の回避や解決を図るように促すことです。

従来、生徒指導といえば、問題対応、事後対応と考えられてきました。「予防的」といった場合にも『治療的予防』が主でした。

しかし、生徒指導とは、「社会の中で自分らしく生きることができる大人へと児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけ」の総称であり、「社会性の育成」や「社会に受け入れられる自己実現を図ること」が大きな目的です。そのような考えの上でなされるのが健全育成型の発想による『教育的予防』です。

予防的な意図でなされようとする生徒指導の働きかけが、『教育的予防』と『治療的予防』のどちらの発想でなされるべきか、その学校の現状に関わってきます。

問題対応型の『治療的予防』と健全育成型の『教育的予防』を混同することなく、適切に取り組むことで大きな成果を得ることにつながります。

国立教育政策研究所生徒指導リーフ参照



研修講座のお知らせ & 感想

<夏休み後に開催する講座のご紹介>

「図書館教育講座」

日時：9月8日(火)

会場：いわき市文化センター4階

講師：児童文学評論家 赤木かん子

内容：「学校図書館の機能の充実と活用について」

対象：初任者・経験者研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(選択)、希望者(教頭・教諭・常勤講師)



<授業力向上講座Ⅱ(小学校外国語活動)の感想紹介>

☆ 実際の授業に役立つゲームや流れを教えていただき大変役に立った。

☆ ディスカッション・フォーム(参考資料の1つ)はコミュニケーションをとる方法として、有効だと感じた。

☆ ALTの思い、悩みを知ることができよかった。

☆ コミュニケーションをとる楽しさを、外国語活動を通して子どもたちに味わわせたい。